磯っ子レポート No.38

郷土資料館企画展

『磯・砂浜』
～身近な自然の営み～

大磯の海岸には、いろいろなウミガメが卵を産みにきています。２００４年のアカウミガメの卵は109個あり、生まれた卵が60個あったそうです。生まれる確率は55％で、約半分だったのにはおどろきました。

また、海岸に打ちあげられたものも、展示してありました。

貝がらや流木、テニスのボール、ペットボトルのふたなどの生活用品、つり用のうきなどがありました。ボールなどの小さなものをウミガメが食べてしまっていないか、心配になりました。このようなもので、ウミガメの数が減ってしまうこともあるのかなと思いました。

たくさんの発見があっておもしろかったです。また大磯海岸に関わる行事があったら、行きたいなと思いました。

（高島あずさ）

草取りボランティア

（5月12日）

松なみ木の草取りにいきました。いつも花がさいているのは、こういったボランティアの人たちが、手間をかけて草取りをしてくれているからだと思いました。草取りは、たくさんの人がいたほうが一日でも早くおわると思うので、もっと人が増えてほしいです。大勢の人で、草取りをして、きれいな花をさかせたいです。

（内海七夕美）

美化キャンペーン

（5月20日）

「美化キャンペーン」に参加しました。

その日は雲がほとんどなく、夏のように暑かったです。ゴミぶくろの大きいほうをもらったけれど、「こんなにゴミを集められないな」と思いました。

すごく暑かったので、海のほうでゴミを拾うことにしました。ゴミはなく、海そうばかり拾いました。そして、海に足だけつかりました。つめたくてきもちよかったです。

ゴミぶくろを置きにいくと、みんなのふくろにはいっぱいゴミが入っていました。でも私のは、5分の1にもなっていませんでした。ゴミはあまり拾えなかったけど楽しかったです。

（相原美奈）

旧安田別荘一般公開

（5月27日）

安田邸の庭はけっこう広くて、つつじなどの花や木がたくさん植えてありました。小さな川みたいなものもあって、とてもきれいでした。

母屋は、その当時の家の広さとはあまりかわらず、少しおどろきました。私はもう少し広いものだと思っていたからです。持仏堂は、最初、このたてものが持仏堂だと分からず、何をするところなのかなと考えていました。おきょうをとなえるお寺みたいなところだと考えて、あとで調べてみると、そのとおりでした。蔵は校倉造という、細い木を積み重ねた造りでした。床は高くなっているので、そうこだとすぐに分かりました。

近くにあった山も安田ざいばつのものらしく、こんなところに住んでいたら、毎日山で遊べるなと思いました。この日は暑かったけど、木かげがすずしくて、気持ちよく楽しかったです。

（高島あずさ）

去年もいきましたが、去年とは、ちがった発見ができました。

安田邸の庭に、十三のとうがありました。人が亡くなって四十九日がたち、えんま大王様が、地ごくか天国かきめます。そのとき天国になった人は、三十三年間勉強するので、十三のとうというらしいです。

安田邸は、ちょうどつつじがさいていて、きれいでした。こんなところにべっそうがあったら、毎日海を見て山を見て、気持ちがいいだろうなと思いました。私も、海が見えて山が見えるべっそうがほしくなりました。

このように安田さんは、自然にめぐまれた大磯で、ゆうがな休日をすごしていたんだなと思いました。

（内海七夕美）

虎御石まつり

（5月27日）

とらご石を見にいきました。とらご石にさわると、家ない安全など1年えんぎがよいそうです。石の感しょくは、ざらざらしていました。これで1年間えんぎがよくなった気がします。

（内海七夕美）

このコーナーを一緒に手伝ってくれるこども記者を募集しています。

◎問い合わせ
企画室 ☎内線２０６